大阪産業大学
入試対策講座
英　語

夕陽丘予備校
英語講師
藤森　友介

専修学校　夕陽丘予備校

大阪産業大学　一般入試　出題傾向・対策・類題

【全体の傾向】

〇前期Ａ日程、Ｂ日程

Ⅰ（A）	長文読解	設問数５	
（B）	長文読解	設問数５	全て３点（総計 30 点）
Ⅱ	文法・語法４択空所補充	設問数５	全て４点（総計 20 点）
Ⅲ	整序英作文	設問数５	全て４点（総計 20 点）
Ⅳ（A）	会話文空所補充	設問数５	
（B）	会話文空所補充	設問数５	全て３点（総計 30 点）

〇前期Ｃ日程

Ⅰ	長文読解	設問数５	全て３点（総計 15 点）
Ⅱ	文法・語法４択空所補充	設問数５	全て４点（総計 20 点）
Ⅲ	整序英作文	設問数５	全て４点（総計 20 点）
Ⅳ（A）	会話文空所補充	設問数５	
（B）	会話文空所補充	設問数５	全て３点（総計 30 点）
Ⅴ	自由英作文（約 120 語）		15 点

昨年度テーマ：「映画を家で観ることと映画館で観ることの良さについて」

【対策】

① 長文読解

⇒【何となく読むのは NG！　一文一文しっかりと読めるトレーニングを！】

まずは短い英文において適切な文構造をしっかりと把握するトレーニングをしよう。つまり、フィーリングではなく、確実に構造に則った上で英文を和訳できるようにしてほしい。その際に重要なのが品詞の概念の理解である。英文の中での各品詞の役割を適切にマスターし、与えられた英文をしっかり品詞分解出来てこそ、初めて英文の構造を理解したということができる。

ここから一般入試までまだ時間は残されている。「英文解釈」「英文読解」の基礎的な参考書を演習して、過去問演習に向かっていってほしい。

そして、ある程度構造・品詞で読めるようになった後、複数のパラグラフからなる長文問題を演習する、という学習方針をおすすめする。

この場合も「何となく読む」のではなく、「各段落で何を言っているか」というテーマをまとめて読んでいこう。大阪産業大学の長文は「一文一文がしっかり読め、かつ全体の論理展開が分かれば解答にたどり着くことができる」という方針で問題が作られている。

また、年々特にこの大問 1 の長文においては語彙レベルが上がり、論の流れも複雑になってきている印象をうける。単語学習は日々怠らず行おう。単語も「何となく見る」ではなく、単語帳の例文をチェックしながら、例文を音読して覚えていこう。

② 文法・語法４択空所補充⇒【何が問われているか、自分で分かるようになろう】

４択問題集で何となく、「見たことある！」と答えを出している受験生はいないだろうか？おそらく、これを読んでいる受験生の中にはそういう生徒さんも多いのではないだろうか。そのような勉強方法では、本番で時間もかかるし、正答率は上がらない。

４択問題集を解きながら、「なぜこの答えになるのかわからない」個所にチェックし、「どうしてこの答えになるのか」という文法・語法のルール・根拠を確認しながら勉強しよう。そのような姿勢で臨むことで最終的に過去問演習の際には、例えば「この問いの着眼点は関係詞だ」と自分でどの範囲の文法・語法が問われているか着眼点が分かるようになることを目指そう。この点に関しては後ろに実際に出題された文法・語法問題を載せてあるので、動画を通して体験してみよう。

③ 整序英作文⇒【5 文型やつなぎ語をわかった上で適切な英文を作ろう】

文法•語法の知識を使いながら５文型の理論に則った上で適切な英文構成力を養う必要がある。従って、②とも繋がるが、基礎的な入試用の文法・語法問題集を使いながら、文の中心となる動詞の決定とその動詞が第何文型を主に取ることが出来るかを考えながらしっかりと演習を積み重ねていってほしい。その他にキーポイントとなるのが、接続詞・関係詞などのつなぎ語だ。日本語を参考にし、どの部分がつながるかという点を着目しよう。この点も後ろにある実際に出題された整序英作文問題を通して体験してみよう。

④ 会話文⇒【前後の流れをしっかりと捉えよう】

会話の流れを正確に捉える練習を重ねていってほしい。その為には代名詞が何を指しているのか、この疑問文では何を聞かれているのか、どのような話題について会話がされているのか、という文脈把握に関する事項を確実に抑えて読んでいく訓練をしよう。会話の着眼点と長文の着眼点は似ていることが多々あるので、長文に比べて語数が少ない会話文の流れが正確に捉えられるようになると、長文読解の展開も正確性を増すだろう。

⑤自由英作文⇒【まずは正確な短文が書けるように】

自由英作文の上達は一朝一夕には難しい点がある。しかし、C 日程を受験する予定であれば避けて通ることは出来ない。従って、まずは学校の英語表現・文法のテキストの例文を覚える所から始めよう。変にかっこいい文や難しい文を書こうとするのではなく、文法的に正しい英文を書けるようになるという点がまず第一の優先事項だ。その後、しっかりとした論理展開で書けるように過去問を使いながら学校の先生に添削してもらおう。

【実際の入試問題から】

【1】 空所を埋めるのに最も適切な語句を**(a)**～**(d)**から１つずつ選びなさい。

(1) I (　　) by an expert.
(a) had repaired this watch　(b)had this watch repaired　(c)have been repaired this watch
(d)have repaired this watch

(2) Never (　　) such a beautiful flower.
(a) did I saw　(b)have I seen　(c)I have seen　(d)I saw

【２】(a)～**(d)**の語句を空所に入れて英文を作るとき、＊印の空所に入る最も適切な語句を**(a)**～**(d)**から一つずつ選びなさい。

(1) The doorbell was (　　) (　＊　)(　　), (　　) I knocked on the door.
(a) of　(b)order　(c)　out　(d) so

【答え】

【１】(1) b　(2) b　　【２】(1) a